

## 平成26年度授業シラバスの詳細内容

|               |   |     |             |         |
|---------------|---|-----|-------------|---------|
| 科目名(英)        | アジア経済論(Asian Economy)                               |     | 授業コード       | E000451 |
| 担当教員名         | 市川 芳郎   |     | 科目ナンバリングコード |         |
| 配当学年          | 3   | 開講期 | 後期          |         |
| 必修・選択区分       | 選択  | 単位数 | 2           |         |
| 履修上の注意または履修条件 | 新聞・TVなどによって、国際情勢やビジネス界の動きに関心をもってください。               |     |             |         |
| 受講心得          | 配布プリント、ノート、筆記具を必ず持参してください。他の受講生の迷惑になるような行為は慎んでください。 |     |             |         |
| 教科書           | 特定のテキストは使用しません。毎回プリントを配布します。                        |     |             |         |
| 参考文献及び指定図書    | 坂田幹男『ベーシック アジア経済論』晃洋書房 2013年                        |     |             |         |
| 関連科目          | 特にはありません。   |     |             |         |

|       |   |
|-------|---|
| 授業の目的 | アジア経済が注目される理由として、世界の中で最も経済的に活性化した地域であること、ASEAN自由貿易地域(AFTA)などの地域統合の動き、そして日本とアジアの経済関係がさらに緊密の度を加えてきていること、などが指摘できます。本講義ではそうした動向を踏まえ、東アジアの歴史的展開、経済成長の特質、工業化政策、通貨危機、地域統合、日本との貿易・投資などについて分析を行い、受講者のアジア経済についての基本的な知識の習得・理解を促進し、ひいては今後の日本経済の発展の方向性について考えるきっかけとなることを目的とします。 |
| 授業の概要 | 前半部では、1997年のアジア通貨危機以前の東アジアの経済発展過程を説明しています。経済成長の特質、工業化政策を中心に説明します。後半部では東アジア各国の所得格差、アジア通貨危機、地域統合の動き、世界同時不況とアジア経済、勃興するアジア経済圏の将来像、日本との貿易・投資関係について説明します。   |

| ○授業計画   |             |
|---|-------------|
| 学修内容  | 学修課題(予習・復習) |
| <b>第1週：第1回 オリエンテーション</b><br>シラバスに基づいて本授業の内容、目的、到達目標、授業方法について説明します。さらに、成績評価、受講心得を説明します。  |             |
| <b>第2週：第2回 アジア経済論の目的</b><br>アジア経済が注目されています。アジア経済の分析視点について説明します。   | 配布プリント      |
| <b>第3週：第3回 東アジアの経済発展</b><br>世界銀行が1993年に発行した『東アジアの奇跡—公共政策と経済成長』で分析された東アジアの発展過程を説明します。  | 配布プリント      |
| <b>第4週：第4回 東アジアの工業化政策</b><br>輸入代替工業化と輸出主導型工業化について説明します。   | 配布プリント      |
| <b>第5週：第5回 ミント報告書とタイのNAIC型工業化</b><br>ポスト輸出工業化について説明します。   | 配布プリント      |
| <b>第6週：第6回 工業化政策の新動向</b><br>資源動員型成長からイノベーション主導型成長への転換がなぜ必要かを説明します。  | 配布プリント      |
| <b>第7週：第7回 タイの工業化政策</b><br>タイのデュアル・トラック路線と今後の開発戦略について説明します。   | 配布プリント      |
| <b>第8週：第8回 東アジアの経済発展と所得格差</b><br>東アジア各国の所得格差、クズネッツ仮説とグローバル化について説明します。   | 配布プリント      |
| <b>第9週：第9回 アジア通貨危機から学ぶこと</b><br>1997年のアジア通貨危機の発生により、奇跡は危機に一転しました。危機を誘発した背景、「アジア的」通貨・金融危機の発生した原因、「21世紀型」危機対応のしかた、奇跡と危機とが与えた教訓を検証します。 | 配布プリント      |

|   |                     |        |
|---|---------------------|--------|
| <b>第10週：第10回 アジアにおける地域経済圏ーその1</b><br>この地域における各国の地域協力と地域統合への可能性を探ります。そして、地域統合への歩みとして、ASEANの結成以後の各国の統合・連帯の動きを振り返ります。                | 配布プリント              |        |
| <b>第11週：第11回 アジアにおける地域経済圏ーその2</b><br>アジア域内経済協力と統合化の現状を分析します。アジア太平洋経済協力会議(APEC)、AFTAアセアン自由貿易地域(AFTA)、東アジア地域包括的経済連携(RCEP)について説明します。 | 配布プリント              |        |
| <b>第12週：第12回 世界同時不況とアジア経済</b><br>米国のサブプライムローン問題はリーマン・ショックを経て世界金融危機を引き起こしました。2008年末から東アジアも世界同時不況の渦中にありました。世界同時不況と東アジアへの影響を説明します。   | 配布プリント              |        |
| <b>第13週：第13回 世界経済長期予測とアジア経済の将来</b><br>世界経済の牽引力として期待されるアジアの新興国の今後の発展要因を説明します。  | 配布プリント              |        |
| <b>第14週：第14回 アジア経済と日本経済(1)</b><br>勃興するアジア諸国、特に東南アジア諸国連合(ASEAN)および韓国と日本経済の関係について説明します。   | 配布プリント              |        |
| <b>第15週：第15回 アジア経済と日本経済(2)</b><br>前回到引き続き勃興するアジア諸国、特に中国と日本経済の関係について説明します。   | 配布プリント              |        |
| <b>第16週：期末試験</b><br>論述形式の試験問題です。自筆ノートと配布プリント・資料のみ持ち込み可能です。電子辞書の使用は出来ません。  | 配布プリント<br>自筆ノート、学生証 |        |
| <b>授業の運営方法</b>  | (1)授業の形式            | 「講義形式」 |
|   | (2)複数担当の場合の方式       |        |
|   | (3)アクティブ・ラーニング      |        |
| <b>備考</b>   |                     |        |

|                             |   |
|-----------------------------|---|
| <b>○単位を修得するために達成すべき到達目標</b> |   |
| <b>【関心・意欲・態度】</b>           | 1. ASEAN諸国、韓国、中国の動向について関心があり、新聞、TV、ネットのニュースで情報収集した。 |
| <b>【知識・理解】</b>              | 2. 東アジアの経済発展について理解している。                             |
| <b>【技能・表現・コミュニケーション】</b>    |   |
| <b>【思考・判断・創造】</b>           | 3. 勃興するアジア経済圏と日本経済との関連性について理解している。                  |

| ○成績評価基準(合計100点)  |                     |                   | 合計欄              | 100点 |
|--|---------------------|-------------------|------------------|------|
| 到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点  | 期末試験・中間確認等<br>(テスト) | レポート・作品等<br>(提出物) | 発表・その他<br>(無形成果) |      |
| <b>【関心・意欲・態度】</b><br>※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。   |                     |                   | 10点              |      |
| <b>【知識・理解】</b><br>※「専門能力<知識の獲得>」を含む。   | 40点                 | 30点               |                  |      |
| <b>【技能・表現・コミュニケーション】</b><br>※「専門能力<知識の活用>」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。   |                     |                   |                  |      |
| <b>【思考・判断・創造】</b><br>※「考え抜く力」を含む。  | 20点                 |                   |                  |      |
| <b>(「人間力」について)</b><br>※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。 |                     |                   |                  |      |

| ○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安 |   |
|------------------------------------|---|
| 成績評価方法                             | 評価の実施方法と達成水準の目安   |
| レポート・作品等<br>(提出物)                  | 課題を設定してレポートを提出してもらいます。授業の中で指示します。<br>授業確認テストをします。意欲的に集中して授業を聴いていたかを確認する問題を出します。 |
| 発表・その他<br>(無形成果)                   | 授業の中で質問する場合があります。適切な解答をした人には、記録して加点します。   |